

東日本大震災津波伝承館 いわて TSUNAMI メモリアル 令和 4 年度事業報告書



令和 5 年 6 月

目 次

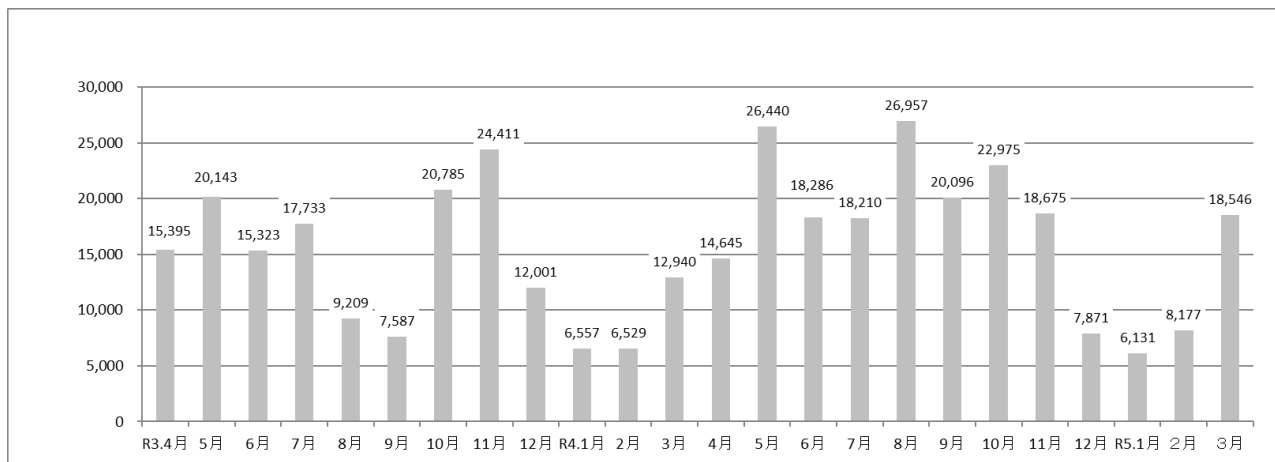
項 目	頁
【1】 来館者の状況	
1 来館者数の推移	2
2 区分別団体予約の状況	3
3 都道府県別団体予約の状況	4
4 団体予約（学校）のリピート率	4
【2】 事業報告	
I 展示・解説事業	
1 常設展示の運用・更新	5
2 企画展示の開催	5
3 解説員の資質向上	8
4 安全な見学環境の確保	9
II 教育・普及事業	
1 いわてTSUNAMIメモリアルセミナーの開催	10
2 教育旅行・校外学習の誘致促進	11
3 震災学習プログラムの運用	11
4 オンライン展示解説の実施	11
III 誘客宣伝事業	
1 情報発信	12
2 教育旅行・校外学習の誘致促進（再掲）	12
3 多様な来館者の誘致促進	12
4 震災伝承施設の広域連携推進	13
IV 交流・連携の推進	
1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開	13
2 他の震災伝承施設・団体等との交流・連携	14
3 大学との連携	14
<参考> 東日本大震災津波伝承館の概要	15

【1】 来館者の状況

1 来館者数の推移

令和3～4年度来館者数（令和5年3月31日現在 累計695,058人）

単位：人



令和4年度月別来館者数及び平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	14,645	26,440	18,286	18,210	26,957	20,096	22,975	18,675	7,871	6,131	8,177	18,546	207,009
開館日数(B)	30	31	30	31	31	30	31	30	28	26	28	31	357
平均来館者数(A/B)	488	853	610	587	870	670	741	623	281	236	292	598	580

- ※1) 令和4年度の最多来館者数：3,352人（令和4年5月4日（水・祝））
- 2) 令和4年10月8日（土）：三陸花火競技大会に伴う交通規制の影響により16時閉館
- 3) 令和5年1月24日（火）～25日（水）：展示装置等保守点検により休館

令和3年度月別来館者数及び平均来館者数

単位：人、日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来館者数(A)	15,395	20,143	15,323	17,733	9,209	7,587	20,785	24,411	12,001	6,557	6,529	12,940	168,613
開館日数(B)	30	31	30	31	12	13	31	30	28	27	26	31	320
平均来館者数(A/B)	513	650	511	572	767	584	670	814	429	243	251	417	527

- ※1) 令和3年度の最多来館者数：2,605人（令和3年5月3日（月・祝））
- 2) 令和3年8月13日（金）～9月17日（金）：「岩手緊急事態宣言」の発令に伴い休館
- 3) 令和4年1月16日（日）：トンガ沖で発生した海底火山の大規模噴火に伴う津波警報により休館
- 4) 令和4年2月8日（火）～9日（水）：展示装置等保守点検により休館

令和3～4年度平日及び土日祝日別来館者数

単位：人、日

	平日		土日祝日		計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
来館者数(A)	91,738	116,956	76,875	90,053	168,613	207,009
開館日数(B)	214	241	106	116	320	357
平均来館者数(A/B)	429	485	725	776	527	580

2 区分別団体予約の状況

令和4年度区分別団体予約件数及び予約人数

単位：件、人

		予約件数			予約人数		
		県内	県外	計	県内	県外	計
学校	小学校	122	15	137	5,002	573	5,575
	中学校	65	51	116	3,542	4,057	7,599
	高校	35	25	60	1,777	1,430	3,207
	大学	9	21	30	185	337	522
	計	231	112	343	10,506	6,397	16,903
学校以外	観光ツアー	3	351	354	90	8,209	8,299
	海外（観光含む。）	0	9	9	0	234	234
	地域の団体	80	60	140	1,659	1,073	2,732
	取材・報道	2	12	14	3	27	30
	国（省庁、議員）	11	9	20	73	78	151
	自治体	9	16	25	177	188	365
	議会	1	0	1	12	0	12
	議会（県外）	0	8	8	0	61	61
	県（部局、県議会）	17	0	17	173	0	173
	その他	76	118	194	1,158	2,171	3,329
計	199	583	782	3,345	12,041	15,386	
合計		430	695	1,125	13,851	18,438	32,289

※ キャンセルを除く。区分別にみると、学校では、県内は小学校（122件）による利用が多いが、県外は中学校（51件）による利用が多い。学校以外では、県外の観光ツアー（351件）による利用が突出して多い。なお、その他には、法人（73件）、任意の団体（65件）、専門学校（14件）等が含まれる。

3 都道府県別団体予約の状況

令和4年度都道府県別団体予約件数及び予約人数

単位：件、人

	予約件数	予約人数		予約件数	予約人数		予約件数	予約人数
北海道	11	417	石川県	5	113	岡山県	3	55
青森県	23	635	福井県	3	264	広島県	3	102
岩手県	430	13,851	山梨県	2	47	山口県	1	2
宮城県	65	2,053	長野県	8	309	徳島県	0	0
秋田県	14	379	岐阜県	2	27	香川県	0	0
山形県	21	944	静岡県	7	211	愛媛県	3	40
福島県	34	1,082	愛知県	44	1,080	高知県	0	0
茨城県	7	95	三重県	2	44	福岡県	5	71
栃木県	1	6	滋賀県	1	13	佐賀県	0	0
群馬県	1	12	京都府	5	114	長崎県	0	0
埼玉県	11	356	大阪府	24	465	熊本県	0	0
千葉県	5	91	兵庫県	5	122	大分県	0	0
東京都	341	8,012	奈良県	1	5	宮崎県	0	0
神奈川県	18	859	和歌山県	1	23	鹿児島県	1	30
新潟県	3	90	鳥取県	0	0	沖縄県	0	0
富山県	1	10	島根県	0	0	海外	13	260
						計	1,125	32,289

※ キャンセルを除く。都道府県別では、岩手県（430件）が最も多く、次いで東京都（341件）、宮城県（65件）の順となっている。

令和4年度都道府県・区分別団体予約件数

単位：件

	小学校		中学校		高校		観光ツアー	
	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数	都道府県	予約件数
1	岩手県	122	岩手県	65	岩手県	35	東京都	264
2	山形県	5	宮城県	11	東京都	8	福島県	21
3	東京都	3	秋田県	6	宮城県	3	大阪府	15
4	宮城県	2	神奈川県	6	大阪府	3	愛知県	12
5	その他	5	その他	28	その他	11	その他	42
	計	137	計	116	計	60	計	354

※ 区分別にみると、学校では、いずれも岩手県が多く、観光ツアーでは、東京都が最も多い。

4 団体予約（学校）のリポート率

単位：校

		R1	R2	R3	R1~R3	R4	R4	R4	R4
		来館校数	来館校数	来館校数	来館校数①	来館校数②	リピート校数③	リピート率③/①	リピート占有率③/②
県内	小学校	6	101	128	165	117	95	57.6%	81.2%
	中学校	5	41	57	70	52	34	48.6%	65.4%
	高校	6	14	25	32	27	13	40.6%	48.1%
	特別支援学校	0	3	7	7	5	4	57.1%	80.0%
	計	17	159	217	274	201	146	53.3%	72.6%
県外	小中高全て	8	41	67	115	84	17	14.8%	20.2%

※ 1校が集計期間内に複数回来館しても1校と計算していること。

【2】 事業報告

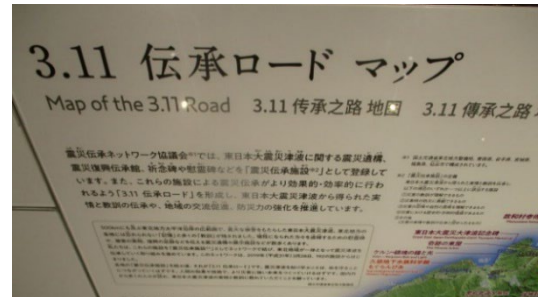
I 展示・解説事業

新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、常設展示、解説員による展示解説及び企画展示を通じて、来館者に効果的な学びの場を提供した。

1 常設展示の運用・更新

- ・ 随時、常設展示の修正・補修を実施した。
- ・ コロナ禍に対応した臨時休館（R2. 4. 12～5. 24）以降、一部供用を制限していた展示機器の使用を再開した。（11月から順次実施）
- ・ 3. 11伝承ロード登録施設の新規追加、鉄道駅・観光施設の新規開業等に対応し、エントランスの「3. 11伝承ロードマップ」及び「三陸ガイド」を更新した。（3月）

【更新したエントランスの「3. 11伝承ロードマップ」「三陸ガイド」（両サイドテーブル）】





2 企画展示の開催

当館主催及び関係団体との共催による企画展示を次のとおり実施した。

	主	共	展示内容・期間等
1		①	<p>気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 ゴールデンウィークイベント (4/29～5/8、同館との共催)</p> <p>当館企画展示パネル（令和3年度第4回）の貸出展示により本県沿岸地域の復興状況を発信した。</p>
2		②	<p>名古屋市港防災センター企画展 「土からわかる防災のはなし」 (5/24～8/31、同センターとの共催)</p> <p>当館企画展示パネル（令和2年度第1回）の貸出展示により東日本大震災津波発災当時の時間経過を紹介した。</p>



3	①	<p>第1回「碑文が語る三陸の地震津波」 (6/18～7/18)</p> <p>三陸地域に多く点在する碑文やその建立に関わる取組を紹介し、地震津波の常襲地である三陸の歴史をたどるとともに、伝えるべき先人及び現在活動を続ける人たちの想いを知る機会を提供した。 期間中に関連事業「『碑の記憶』VR体験」を開催した。</p>	
4	②	<p>第2回「事実と教訓を未来につなぐ」 (9/17～10/16)</p> <p>沿岸地域で活動する震災伝承団体と、その伝承プログラムや伝承の担い手育成等を紹介した。 期間中に開館3周年「震災語り部等ガイドサミット」(9/25)を開催した。</p>	
5	③	<p>写真展「東日本大震災津波と海上保安庁」 (10/7～30、釜石海上保安部との共催)</p> <p>震災津波当時の行方不明者の捜索や海上交通の復旧活動等の写真を通じて、自然災害への備えの意識を新たにし、津波から避難し命を守ることの大切さを紹介した。</p>	
6	③	<p>第3回「岩手県の避難所－東日本大震災津波から見てきたこと－」 (12/10～1/9)</p> <p>震災当時の県内の避難所の状況と推移、見えてきた避難所の課題を紹介し、次の災害に備えての新たな避難所のあり方を考える機会を提供した。 期間中に関連事業「避難所グッズたいけん！」を開催した。</p>	

7	④	<p>第4回「いわて三陸沿岸のいま2022～東日本大震災津波から12年の新しい三陸～」 (2/25～3/26)</p> <p>2022年における本県沿岸地域の復興の動向を、「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」「未来のための伝承・発信」の4つの視点から展示し、東日本大震災津波から12年のいわて三陸の現状を発信した。</p> <p>期間中に関連事業「高田松原津波復興祈念公園ウォーキングツアー～公園設計に込めた鎮魂と復興への思い～」を開催した。</p>	
---	---	--	---

このほか、市町村等の要請に対応して、上記の企画展示で制作したポスター等の貸出を実施し、展示内容の広域かつ継続的な発信・活用を図った。

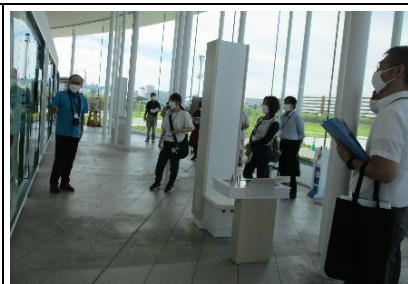
催事名・相手方	貸し出した展示制作物	貸出期間
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 ゴールデンウィークイベント（当館共催）	令和3年度第4回企画展示ポスター	4/29～5/8
名古屋市港防災センター企画展	令和2年度第1回企画展示ポスター	5/24～8/31
今から始める防災・減災展（一般社団法人おはなしころりん）	令和3年第2回企画展示ポスター	6/3～7/1
いわての復興教育展（一般社団法人おはなしころりん）	令和3年度第3回企画展示ポスター	10/28～11/14
「いわての復興教育」「解説 避難行動の真実」岩手県立図書館4階展示	令和2年度第3回企画展示ポスター 令和3年度第3回企画展示ポスター	1/25～6/7
第28回日本災害医学会総会・学術集会	令和2年度第1回企画展示ポスター 令和2年度第2回企画展示ポスター 令和3年度第1回企画展示ポスター 令和3年度第4回企画展示ポスター 令和4年度第1回企画展示ポスター 令和4年度第2回企画展示ポスター 令和4年度第3回企画展示ポスター	2/24～3/17
おぢや震災ミュージアムそなえ館 「3.11東日本大震災特別展示」	令和2年度第4回企画展示制作物 令和3年度第2回企画展示制作物	2/25～3/24

3 解説員の資質向上

解説員の資質及び解説水準の向上を図るため、以下の研修を実施した。

① みやぎ東日本大震災津波伝承館見学研修 (8/22、29)

石巻南浜津波復興祈念公園及びみやぎ東日本大震災津波伝承館を見学し、震災遺構や伝承施設についての理解を深めた。また、解説員同士の情報交換を行い、日頃の解説業務の向上に向けた話し合いを行った。



② インバウンド対応研修 (1/11)

大船渡市のALT (外国語指導助手) の協力を得て、英語担当解説員による展示解説の水準向上を図った。



③ 解説員集合研修 (1/24、25 臨時休館日)

・ 陸前高田市立博物館の視察

令和4年度に開館した市立博物館を学芸員の解説付きで見学し、地域についての理解を深めるとともに、地域の施設の連携を図った。



・ 3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館の視察

遠野市長による講話を聴講するとともに、遠野市後方支援資料館を見学し、東日本大震災津波の際の後方支援についての理解を深めた。



・ 障がい者対応研修

気仙光陵支援学校の職員を講師に、障がいを持った方が来館された際の対応の仕方やその特性等について理解を深めた。



・ 非常時対応研修

陸前高田市消防署の職員を講師に、非常時の救急救命法について実技を交えて学んだ。また、津波警報発令時の避難マニュアルについて確認を行った。



4 安全な見学環境の確保

(1) 災害発生時における来館者及び職員の安全の確保

各種訓練を次のとおり実施した。

<p>転入職員津波避難訓練の実施 (4/1) 参加機関：東日本大震災津波伝承館 内 容： 令和4年度に伝承館へ配属となった職員2名、案内職員1名、計3名で実施し、徒歩で指定緊急避難場所である気仙小学校まで避難ルートを確認した。</p>	
<p>県総合防災訓練・津波避難訓練の実施 (10/29) 参加機関：県、道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館、陸前高田市防災局防災課 内 容： 県総合防災訓練の実施に合わせて実施した。 また、当日団体予約で来館していた方々に協力いただき、指定緊急避難場所である気仙小学校までの避難ルートを確認した。</p>	
<p>火災避難訓練の実施 (12/15) 参加機関：道の駅高田松原、公園財団高田松原津波復興祈念公園管理事務所、東日本大震災津波伝承館 内 容： 道の駅、高田松原国営追悼・祈念施設及び伝承館の合同消火・避難訓練を実施し、初期消火、避難誘導、救護等について確認した。</p>	
<p>津波避難訓練の実施 (1/25) 参加機関：東日本大震災津波伝承館 内 容： 解説員研修に併せ、津波避難訓練を実施した。 また、武力攻撃（弾道ミサイルの発射等）があった場合を想定した安全管理マニュアルの改正について確認するとともに、指定緊急避難場所である気仙小学校までの避難ルートを再確認した。</p>	

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止

三密（密閉・密接・密集）環境の排除、座席等の消毒、マスクの着用、検温及び手指の洗浄・消毒を極力実施するなど、館運営における基本的な感染拡大防止策の徹底を図った。

なお、感染状況の変化や国の動向に対応し、展示機器の使用再開（再掲）やマスク着用の見直しを行った。（3/13～）

【新型コロナウイルス感染症対策の取組状況】

来館者及び職員のマスク着用の徹底、検温（サーモグラフィーカメラの導入）、手指消毒（消毒用アルコールの設置）、受付の亚克力板設置、空調設備による常時換気、職員による展示設備等の消毒、共用端末等の利用停止、証言ファイルの限定閲覧、シアター席等の間隔確保等

II 教育・普及事業

1 いわてTSUNAMIメモリアルセミナーの開催

東日本大震災津波の事実と教訓や三陸復興の姿について学び、体験し、交流する機会として、一般来館者等を対象とする「いわてTSUNAMIメモリアルセミナー」を、震災伝承に関わる学識者や関係団体と連携して開催した。

開催に当たっては、企画展示事業と連動して時期やテーマを設定し、相乗効果の発揮を図った。

1	6/25、26 7/2、3	<p>「VRで体験～三陸の津波の歴史～」 (参加者数：315名) IBC岩手放送・岩手日報社が共同制作したVR動画「碑の記憶」を体験上映した。 (第1回企画展示の関連事業)</p>	
2	9/25	<p>開館3周年「震災語り部等ガイドサミット」 (参加者数：60名) 被災3県の伝承の担い手によるパネルディスカッション等を実施し、当館から吉田解説員がパネリストとして参加した。 (いわて復興未来塾と併催)</p>	
3	10/15、16	<p>「体験しよう！ 防災×観光アドベンチャーゲーム『あの日』」 (参加者数：20名) ㈱キャッセン大船渡が提供する「防災×観光アドベンチャーゲーム あの日」(監修：東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授)の体験イベントを開催した。 (第2回企画展示の関連事業)</p>	
4	12/24、25 1/7、8	<p>「避難所グッズたいけん！」 (参加者数：25名) 段ボール製のトイレやベッド、簡易テントを組み立て、防災リュックの準備など避難所で使用するグッズの体験イベントを開催した。 (第3回企画展示の関連事業)</p>	
5	3/18	<p>「高田松原津波復興祈念公園ウォーキングガイドツアー」 (参加者数：21名) 高田松原津波復興祈念公園の設計に携わった方の案内で、設計に込めた鎮魂と復興への思いを聞きながら園内を散策するウォーキングツアーを開催した。 (第4回企画展示の関連事業)</p>	
6	3/19、26	<p>「でんしょうかんの上映会」 (参加者数：87名) 防災意識の向上と、春休みにおける小・中学生の来館促進を図るため、地震・津波及び防災に関する映画鑑賞会を開催した。</p>	

2 教育旅行・校外学習の誘致促進

(1) 県内小中学校の訪問

山田町内の小学校3校、中学校1校、計4校を訪問し、復興教育の実績や予定、当館の活用見込や評価、課題等を聞き取り、展示・解説の改善に反映するとともに、来館促進を図った。（感染症拡大防止の観点から訪問回数を縮小）

(2) 震災・防災学習現地研修会の実施（7/28、29）

修学旅行や校外学習における伝承館の利用促進を図るため、県内の教員（小・中・高・特別支援学校）向けに現地研修会を開催した。

内容：当館及び高田松原津波復興祈念公園、県立野外活動センターの解説見学（同内容を2日間実施）

参加者数：27名（7/28：14名、7/29：13名）



3 震災学習プログラムの運用（校種等に対応した教材の作成と活用）

学校のニーズに対応した展示解説を行ったほか、予習・復習に対応した震災学習教材（震災学習ノート・震災伝承ノート）を配布した。

	震災津波学習ノート（小学生用）	震災津波伝承ノート（中高校生用）
表紙		
配布実績	延べ121校・5,536部	延べ151校・10,897部

4 オンライン展示解説の実施

コロナ禍への対応、また、来館が難しい遠隔地の学校・団体等に向けた新たな震災伝承スタイルを模索するため、関係機関と連携してオンラインでの展示解説を実施した。

	開催時期	相手方（人数）	摘要
1	9/7	名古屋市立万場小学校（66）	名古屋市との連携・交流事業
2	10/15、16	ぼうさいこくたい2022	ローカル5G等を活用した地域課題解決支援事業（県科学・情報政策室）
3	11/2	宮古高校（定時制）（27）	同上
4	1/7、8	いわて冬季観光キャンペーン	いわて銀河プラザとの生中継による遠隔見学（県観光・プロモーション室）
5	2/3	JENESYS2022日比交流（20）	（一社）日本国際協力センター主催 マルゴト陸前高田のコーディネート
6	2/16	葛巻高校リモート授業（22）	ローカル5G等を活用した地域課題解決支援事業（県科学・情報政策室）
7	3/16	名古屋市立本城中学校（355）	名古屋市との連携・交流事業

Ⅲ 誘客宣伝事業

1 情報発信

(1) 報道機関への情報提供によるパブリシティ

大船渡記者クラブ等への情報提供を通じて、県内向け報道の充実を図った。

(2) ホームページ・SNSを活用した情報発信

当館公式ホームページの充実を図るとともに、当館周辺の日々の動向についてインスタグラム・ツイッター等を活用して積極的に発信した。

【媒体別のフォロワー数（各年度末現在）】

	R1	R2	R3	R4
Twitter	1,202	2,024	2,490	3,062
Instagram	527	1,071	1,260	1,406
Facebook	650	838	960	1,081

(3) 都営地下鉄への中吊り広告の掲出

東京都交通局の復興支援を活用し、都営地下鉄全線全車両への中吊り広告を掲出した。（令和元年度から4年目）

実施時期：2/20～3/5



あの日から、まもなく12年——。岩手県陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園では、東日本大震災津波伝承館や道の駅高田松原が、世界中から訪れるお客様をお迎えしている。

130ヘクタールもの広大な公園にある各施設に共通したテーマは、「伝える」。

三陸の暮らしや文化の歴史、震災津波の事実、復興の足あと、豊かな自然がもたらす爽やかさ、そして「命を守る」防災の大切さ。何と出会っても、誰と出会っても、しっかりと伝わるものがある。

さあ、いまこそ岩手三陸へ。

高田松原津波復興祈念公園 東日本大震災津波伝承館 道の駅高田松原

2 教育旅行・校外学習の誘致促進（再掲）

3 多様な来館者の誘致促進

(1) 高田松原津波復興祈念公園における切れ目のない見学環境の整備

高田松原津波復興祈念公園パークガイドを始め、近隣の施設・サービスと連携し、園内における切れ目のない見学環境の充実を図るため、県立野外活動センターや陸前高田市観光物産協会、(一社)マルゴト陸前高田等との定期的な情報共有・意見交換を行った。

(2) 旅行会社と連携した誘客促進

三陸DMOセンター等関係機関が実施する、旅行会社の商品造成企画担当者を招へいする下見旅行（FAMツアー）を受け入れた。

5/29	【首都圏】 株式会社JTB新宿第3事業部（4名）
9/12	【中京地区】 北東北三県観光立県推進協議会 旅行事業者招へい・商談会（9名）
9/16	【首都圏】 岩手県観光協会 旅行事業者招へい・商談会（14名）
10/8	【九州地区】 岩手県福岡事務所 旅行事業者招へい・商談会（11名）

また、3月6日、7日に仙台市内の旅行会社6社と(一社)東北観光推進機構を訪問し、当館の見学環境や近隣の施設・サービスの紹介と併せ、仙台圏における観光動向、当館の利用見込み（特に教育旅行）について意見・情報交換を行った。

4 震災伝承施設の広域連携推進（3.11伝承ロードとの連携）

エントランスに3.11伝承ロードマップを整備し、パンフレット（3.11伝承ロード全体版、岩手県版）を配架した。

また、3.11伝承ロード推進機構が主催する見学ツアーを受け入れた。

1	4/12	若手職員等震災伝承研修（20名）
2	6/13	東北復興視察会（10名）
3	7/ 7	観光ツアー（6名）
4	7/21	日本建設業連合会関東支部（9名）
5	9/ 8	三展ミネコンサルタント（15名）
6	10/ 5	東北測量設計協会（16名）
7	10/ 7	国土技術研究センター（20名）
8	10/12	日本建設業協会東北支部（11名）
9	11/12	3.11伝承ロードツアー（19名）
10	11/24	株式会社大林組東北支店（27名）
11	12/12	清水建設株式会社東北支店（21名）
12	3/15	清水建設株式会社東北支店（21名）
13	3/23	（一社）日本建設業連合会東北支部（19名）
		（合計214名）

IV 交流・連携の推進

1 多様な主体との連携による震災伝承活動の展開

県内外の団体による震災伝承活動等を共催・後援したほか、企画展示制作物（過去の企画展示において制作した展示ポスター等）の貸出し等を実施した。

1	4/29～5/8	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 ゴールデンウィークイベント ※再掲	共催	展示貸出
2	5/24～8/31	名古屋市港防災センター 企画展「土からわかる防災のはなし」 ※再掲	共催	展示貸出
3	6/3～7/1	(NPO)おはなしころりん 「今から始める防災・減災展」	—	展示貸出
4	10/7～10/30	釜石海上保安部写真展 ※再掲	共催	—
5	10/28～11/14	(NPO)おはなしころりん 「いわての復興教育展」	—	展示貸出
6	1/25～6/7	岩手県立図書館4階展示	—	展示貸出
7	2/24～3/17	28回日本災害医学会総会・学術集会	—	展示貸出
8	2/25～3/24	おぢや震災ミュージアムそなえ館 「3.11東日本大震災特別展示」	—	展示貸出
9	3/4	大船渡津波伝承館から未来への提言 「あなたは、このままでは生き残れない！」	後援	—

2 他の震災伝承施設・団体等との交流・連携

(1) 名古屋市との連携交流（通年）

名古屋市と陸前高田市との連携交流事業として、名古屋市職員や市民に当館の展示解説を実施した（10回）ほか、小中学校を対象としたリモート授業を実施した（2回、再掲）。

(2) 三陸ジオパーク推進協議会との連携（通年）

エントランスでの刊行物配架（パンフレット、イベントチラシ等）、教育普及事業における連携（6/25～7/3「VRで体験～三陸の津波の歴史～」でジオサイトである震災遺構を紹介）した。（以上再掲）

また、以下のジオパーク関係イベントにおいて、ジオパーク認定ガイドを兼ねる解説員が発表者として参画した。

- ① 三陸ジオパークセミナー（8/25）
- ② 三陸観光フォーラム2022（10/29）
- ③ 三陸ジオパーク構成市町村長によるジオツアー（南部ブロック）（11/14）
- ④ 島根半島・宍道湖中海ジオパーク防災・減災シンポジウム（12/17）

(3) 震災教訓伝承発信ガイドセミナー（7/22）

沿岸広域振興局による同セミナーに解説員4名が参加し、県内の震災伝承団体の活動視察と併せ、従事者との意見・情報交換を行った。

(4) ぼうさいこくたい2022（10/15、16日；再掲）

兵庫県神戸市の会場において、当館のリモート見学を実施した。

当館に基地局を設置したローカル5G回線を活用し、アバターロボット・360度カメラを用いた遠隔見学のほか、解説員による遠隔展示解説を行った。

(5) 海外津波博物館とのオンライン交流（11/20、復興推進課所管事業）

当館から副館長が対応。また、大槌高校復興研究会の生徒3名が当館にて事前学習を行った。

(6) 東日本大震災伝承施設の訪問調査（2/10）

南三陸町震災復興祈念公園ほか南三陸町内の震災伝承施設の訪問調査を実施した。

(7) 阪神・淡路大震災伝承施設の訪問調査（2/21、22）

訪問先施設の施設管理・運営、展示内容等各般の取組を参考とし、当館の事業展開の更なる充実を図るとともに、施設間連携を深め、自然災害の事実と教訓を国内外に一層発信していくことを目的として、人と防災未来センター及び北淡震災記念公園の訪問調査を実施した。

(8) 仙台防災未来フォーラム2023への出展（3/4）

仙台国際センターにおいて開催された標記フォーラムにブース出展し、当館の展示・解説内容を発信した。

3 大学との連携

(1) 東北大学災害科学国際研究所設立10周年記念行事（10/21）

当館から藤澤副館長が出席した。

(2) 館の運営に関する指導・助言

- ・ 伝承館の展示全般についての指導・助言（岩手大学理工学部 南教授）
- ・ 企画展示の監修、館内展示の指導・助言（東北大学災害科学国際研究所 柴山准教授）

<参考> 東日本大震災津波伝承館の概要

1 施設の概要

(1) 名称	東日本大震災津波伝承館
(2) 愛称	いわて T ^つ SUNAMI ^な メモリアル
(3) 設置場所	陸前高田市気仙町字土手影180番地（高田松原津波復興祈念公園内）
(4) 規模・構造	鉄筋コンクリート造2階建 延床面積（2階含む）7,079㎡のうち展示面積1,155㎡
(5) 開館年月日	令和元年9月22日（日）
(6) 開館時間	9時から17時まで（最終入館時刻16時30分）
(7) 休館日	12月29日から翌年1月3日まで 施設メンテナンスのため必要となる日（概ね年4日程度）
(8) 入館料	無料

2 設置目的（東日本大震災津波伝承館条例）

- (1) 東日本大震災津波の教訓の伝承（第1条）
- (2) 東日本大震災津波の発災から復興に至るまでの状況の国内外への発信（第1条）
- (3) 復興支援に対する感謝の発信（条例前文）

3 ミッション・ステートメント（施設の基本理念；平成30年1月9日決定）

日本列島は、地球上でも特に自然災害の危険性が高い宿命の地であり、この地に生きる私たちは、長年にわたり自然災害への対応力を高めてきました。

しかし、2011年3月11日に発生した東日本大震災津波により、私たちは多くの尊い命を失いました。

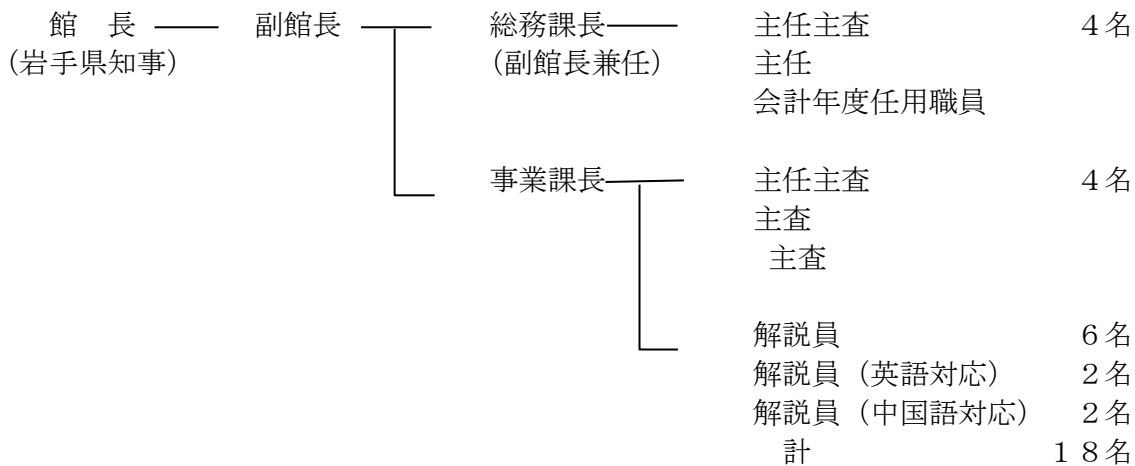
この悲しみを繰り返さないためには、知恵と技術で備え、自ら行動することにより、様々な自然災害から命を守り、そして、自然災害を乗り越えていくことが重要です。

東日本大震災津波伝承館は、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。

※ ミッションステートメント：来館者に向けて、施設の基本理念を表明することにより、展示及び事業運営の指針を明確に示し、訴求力を高めようとするもの。

4 組織体制（令和5年4月1日現在）



5 「いわて県民計画（2019～2028）」における位置付け

「復興推進プラン」の4本の柱「未来のための伝承・発信」のもと、事実・教訓の伝承へ取り組んでいく。

【第2期アクションプラン 復興推進プラン（2023年度～2026年度）】

IV 未来のための伝承・発信（抜粋）

1 事実・教訓の伝承

多くの尊い命を奪った東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために、「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の趣旨にのっとり、未曾有の大規模災害の事実や被災された方のこれまでの経験を踏まえた教訓を風化させることなく確実に伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。

また、震災の事実と教訓を世界中の人々と共有して震災への関心の低下を防ぎ、自然災害に強い社会を実現することを目指します。

取組項目22 教訓を伝承する仕組みづくりを推進します

① 東日本大震災津波伝承館を拠点とした事実・教訓の伝承の推進

- ・ 東日本大震災津波伝承館において、来館者への震災学習教材の配付や遠隔地からのオンライン見学の活用等により、展示内容の理解促進を図ります。
- ・ 東日本大震災津波伝承館において、県内外の震災伝承施設等と連携した企画展示を実施するとともに、企画展示と連動したセミナーを開催します。
- ・ 県内外の学校に対し、東日本大震災津波の事実と教訓の伝承を図るため、東日本大震災津波伝承館における教員現地研修会等の開催や、震災学習を中心とした教育旅行等の誘致活動を展開します。
- ・ 県内外の大学と連携し、東日本大震災津波伝承館における効果的な伝承・発信を実施するとともに、防災文化の醸成と継承を図ります。
- ・ 海外津波博物館との交流機会を確保し、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承しながら、国内外の防災力向上に貢献します。

令和5年6月作成

東日本大震災津波伝承館（愛称：いわて^{つなみ}TSUNAMIメモリアル）

所在地：〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町字土手影180番地
（高田松原津波復興祈念公園内）

電話：0192-47-4455

FAX：0192-47-4466

URL：<https://iwate-tsunami-memorial.jp>